

ついに慰安婦問題の捏造を認めた!

朝日新聞の捏造報道

それでもあなたは **また** 購読しますか?

←平成26年8月5日付 朝日新聞朝刊に掲載

1970 中国礼讃キャンペーン

広岡知男社長は、10月21日の新聞協会主催の研究会で「中国の意向に沿わない記事は書かない」と明言。以後、他のマスコミも追随するようになった。チベット侵略や文化大革命の虐殺等の中国の悪行が、日本国内でほとんど報道されないのはそのためである。

1971 南京大虐殺キャンペーン

日本軍が30万人を虐殺したと主張する中国共産党が「証言者」を用意。「中国の旅」(本多勝一)で、その話を何の検証もなしにそのまま記事にする。

本当にあったのか? 南京大虐殺を巡る重大な疑惑

- ①毛沢東党主席は生涯にただの一度も、「南京虐殺」に言及しなかった
- ②(中国) 国民党は、南京戦を挟む1937年12月1日から38年10月24日までの間に、300回の記者会見を行ったが、ただの一度として「南京で市民虐殺があった」「捕虜の不法殺害があった」と述べていない
- ③南京の人口は日本軍占領直前20万人、その後ずっと20万人、占領1ヵ月後の1月には25万人と記録されている。30万虐殺など、到底ありえない
- ④『Documents of the Nanking Safety Zone』には、日本軍の非行として訴えられたものが詳細に列記されているが、殺人はあわせて26件、しかも目撃されたものは1件のみで、その1件は合法殺害と注記されている
- ⑤南京虐殺の「証拠」であるとする写真が、多くの展示館、書籍などに掲載されているが、科学的な研究によって、ただの1点も南京虐殺を証明する写真は存在しないことが明らかとなっている

1985 反靖国キャンペーン

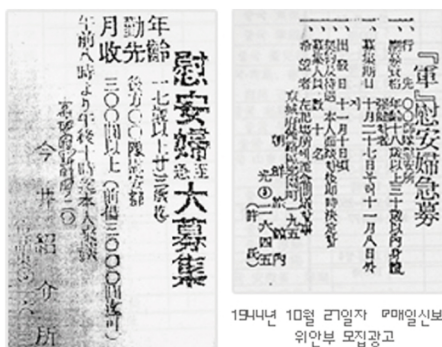
翌年、首相靖国参拝中断に追い込むのに成功。中国、韓国がこの機会を逃さず、政治問題化することに成功。これ以前に靖国参拝が外交問題になったことはほとんどなかったが、これ以後、中国と韓国の政治カードとして定着。

1992 従軍慰安婦キャンペーン

記事の基になった吉田清治の著書が捏造であることが後に判明。

自称従軍慰安婦は民間の求人募集に応じた高給売春婦!

※月給は300円程度。現在の貨幣価値で約120万円。親に売られたり、借金を背負った人たちも多かった。日本政府は謝罪も賠償も一切する必要はないにもかかわらず、韓国政府は人道的支援や基金などと名前を変えて、いまだに日本に金銭的要求を続けている。



1989年、西表島のギネスブックにも載った世界最大級のアザミサンゴに、朝日新聞カメラマンが「KY」と落書き!日本人のモラルが低いと記事を捏造

用語解説「アサヒる」

👉 捏造する。でっちあげる。
 朝日新聞に特徴的な報道を揶揄した表現。(中国共産党に傾倒した報道内容など)
 ワイドショーで「アサヒる」について取り上げられたが、「朝日新聞が政府に対して厳しい論調を書くことを『アサヒる』とインターネットで使われています」と違う意味に説明。特定アジア(反日感情の高い中国、韓国、北朝鮮の3カ国)に厳しいネット言論を敵視するマスコミ業界が、まさに「アサヒる」を自演。

朝日新聞の不祥事・捏造はその他多数!

中立を謳っているマスコミ各社ですが、社是やスポンサーの意向により思想に偏りがあります。「なにか変だな?」と感じたら、ぜひインターネットで検索してみてください。

国民が知らない

チャンネル桜

読者のみなさまへ
 吉田氏が涿州島で慰安婦を強制連行したとする虚偽は虚偽だと判明し、記事を取り消します。当時、虚偽の証言を見逃してしまいました。涿州島を再取材しましたが、証言を裏付ける話は得られませんでした。研究者への取材でも証言の核心部分についての矛盾がいくつも明らかになりました。